

脳神経

- 第Ⅰ脳神経の嗅神経は、鼻腔粘膜の嗅細胞が受容器で、() を伝える神経である。
- 嗅神経の軸索は篩骨篩板を貫いて前頭葉下面の() に入り、そこでニューロンを乗り換える。第2次ニューロンは嗅索を作り大脳辺縁系の扁桃体や、側頭葉の鉤に終わる。
- 第Ⅱ脳神経の視神経は、網膜の視細胞が受容器で、() を伝える神経である。
- 第Ⅲ脳神経の動眼神経は、() に核を持ち、() と() の混合神経である。
- 脳神経の自律神経は、すべて() である。
- 動眼神経が支配する筋は、外眼筋の()、()、()、() と、瞼を上げる() である。
- 動眼神経の自律神経は、瞳孔を収縮させる() と、水晶体の厚さを調節する() がある。
- 第Ⅳ脳神経の滑車神経は、() に核を持ち、() を支配する運動神経である。
- 滑車神経は() から出る唯一の神経である。
- 第Ⅴ脳神経の三叉神経は、() に核を持ち、() と() の混合神経である。
- 三叉神経は、上から()、()、() の3本に枝分かれする。
- 三叉神経の感覚神経は、()・()・() の体性感覚を支配する。
- 角膜に触れると眼球が閉じる角膜反射は、求心路が() で遠心路が()、中枢が() の反射である。
- 三叉神経の運動神経は、()、() の運動を支配する。
- 咀嚼筋には、()、()、()、() がある。
- 第Ⅵ脳神経の外転神経は、() に核を持ち、() を支配する運動神経である。
- 第Ⅶ脳神経の顔面神経は、() に核を持ち、()、()、() の混合神経である。
- 顔面神経は() を伝える。
- 顔面神経の運動神経は、()、() を支配する。
- 顔面神経の自律神経は、()、() を支配する。
- 第Ⅷ脳神経の内耳神経（聴神経）は、() に核を持ち、() と() からなる感覚神経である。
- 蝸牛神経は() を、前庭神経は() を伝える。
- 第Ⅸ脳神経の舌咽神経は、() に核を持ち、()、()、() の混合神経である。
- 舌咽神経の感覚神経は、()、()、() と() の圧とCO₂の低下を感知する。
- 舌咽神経の運動神経は、() を支配する。
- 舌咽神経の自律神経は、() を支配する。
- 第Ⅹ脳神経の迷走神経は、() に核を持ち、()、()、() の混合神経である。
- 迷走神経の感覚神経は、は() と() の体性感覚、() と

- ()、胸腔と腹腔の内臓の感覚を支配する。
- 迷走神経の運動神経は、咽頭下部の()、()の筋を支配する。
 - 迷走神経の枝の()が麻痺すると、声帯の筋が麻痺し、()や()となる。
 - 迷走神経の自律神経は、()、()、()、()、()、肝臓などを支配する。
 - ()は延髄にあり、舌咽神経、迷走神経、副神経共通の運動神経核である。
 - ()は延髄にあり、顔面神経、舌咽神経、迷走神経共通の感覚神経核である。
 - 第Ⅺ脳神経の副神経は、()に核を持ち、()と()を支配する運動神経である。
 - 第Ⅻ脳神経の舌下神経は、()に核を持ち、()を支配する運動神経である。

No	名称	核	感覚神経	運動神経	自律神経 (副交感神経)
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					

脳神経

- 第Ⅰ脳神経の嗅神経は、鼻腔粘膜の嗅細胞が受容器で、(嗅覚) を伝える神経である。
- 嗅神経の軸索は篩骨篩板を貫いて前頭葉下面の(嗅球)に入り、そこでニューロンを乗り換える。第2次ニューロンは嗅索を作り大脳辺縁系の扁桃体や、側頭葉の鉤に終わる。
- 第Ⅱ脳神経の視神経は、網膜の視細胞が受容器で、(視覚) を伝える神経である。
- 第Ⅲ脳神経の動眼神経は、(中脳) に核を持ち、(運動) と(自律神経) の混合神経である。
- 脳神経の自律神経は、すべて(副交感神経) である。
- 動眼神経が支配する筋は、外眼筋の(上直筋)、(下直筋)、(内側直筋)、(下斜筋) と、瞼を上げる(上眼瞼挙筋) である。
- 動眼神経の自律神経は、瞳孔を収縮させる(瞳孔括約筋) と、水晶体の厚さを調節する(毛様体筋) がある。
- 第Ⅳ脳神経の滑車神経は、(中脳) に核を持ち、(上斜筋) を支配する運動神経である。
- 滑車神経は(脳の背側) から出る唯一の神経である。
- 第Ⅴ脳神経の三叉神経は、(橋) に核を持ち、(感覚) と(運動) の混合神経である。
- 三叉神経は、上から(眼神経)、(上顎神経)、(下顎神経) の3本に枝分かれする。
- 三叉神経の感覚神経は、(顔面) ・(眼球) ・(舌前2/3) の体性感覚を支配する。
- 角膜に触れると眼球が閉じる角膜反射は、求心路が(三叉神経) で遠心路が(顔面神経)、中枢が(橋) の反射である。
- 三叉神経の運動神経は、(咀嚼筋)、(鼓膜張筋) の運動を支配する。
- 咀嚼筋には、(咬筋)、(側頭筋)、(外側翼突筋)、(内側翼突筋) がある。
- 第Ⅵ脳神経の外転神経は、(橋) に核を持ち、(外側直筋) を支配する運動神経である。
- 第Ⅶ脳神経の顔面神経は、(橋) に核を持ち、(感覚)、(運動)、(自律神経) の混合神経である。
- 顔面神経は(舌前2/3の味覚) を伝える。
- 顔面神経の運動神経は、(表情筋)、(アブミ骨筋) を支配する。
- 顔面神経の自律神経は、(涙腺)、(唾液腺(顎下腺、舌下腺)) を支配する。
- 第Ⅷ脳神経の内耳神経(聴神経)は、(延髄(と橋の境)) に核を持ち、(蝸牛神経) と(前庭神経) からなる感覚神経である。
- 蝸牛神経は(聴覚) を、前庭神経は(平衡覚) を伝える。
- 第Ⅸ脳神経の舌咽神経は、(延髄) に核を持ち、(感覚)、(運動)、(自律神経) の混合神経である。
- 舌咽神経の感覚神経は、(舌の後ろ1/3の味覚と体性感覚)、(咽頭上部の体性感覚)、(頸動脈洞) と(頸動脈小体) の圧とCO₂の低下を感知する。
- 舌咽神経の運動神経は、(上部咽頭筋) を支配する。
- 舌咽神経の自律神経は、(唾液腺(耳下腺)) を支配する。
- 第Ⅹ脳神経の迷走神経は、(延髄) に核を持ち、(感覚)、(運動)、(自律神経) の混合神経である。
- 迷走神経の感覚神経は、は(咽頭下部) と(喉頭) の体性感覚、(大動脈弓) と(大動脈体)、胸腔と腹腔の内臓の感覚を支配する。

- 迷走神経の運動神経は、咽頭下部の（ 輪状咽頭筋 ）、（ 喉頭、声帯 ）の筋を支配する。
- 迷走神経の枝の（ 反回神経 ）が麻痺すると、声帯の筋が麻痺し、（ 失声 ）や（ 嘔声 ）となる。
- 迷走神経の自律神経は、（ 心臓 ）、（ 気管 ）、（ 食道 ）、（ 胃 ）、（ 腸（横行結腸まで） ）、肝臓などを支配する。
- （ 疑核 ）は延髄にあり、舌咽神経、迷走神経、副神経共通の運動神経核である。
- （ 孤束核 ）は延髄にあり、顔面神経、舌咽神経、迷走神経共通の感覚神経核である。
- 第XI脳神経の副神経は、（ 延髄 ）に核を持ち、（ 胸鎖乳突筋 ）と（ 僧帽筋 ）を支配する運動神経である。
- 第XII脳神経の舌下神経は、（ 延髄 ）に核を持ち、（ 舌筋 ）を支配する運動神経である。

No	名称	核	感覚神経	運動神経	自律神経 (副交感神経)
1	嗅神経		嗅覚	—	—
2	視神経		視覚	—	—
3	動眼神経	中脳	—	上直筋、下直筋、内側直筋、下斜筋、上眼瞼挙筋	瞳孔括約筋 毛様体筋
4	滑車神経	中脳	—	上斜筋	—
5	三叉神経	橋	顔面・眼球・舌前2/3の体性感覚	咀嚼筋、鼓膜張筋	—
6	外転神経	橋	—	外側直筋	—
7	顔面神経	橋	舌前2/3の味覚	表情筋、アブミ骨筋	涙腺、顎下腺、舌下腺
8	内耳神経	延髄	蝸牛神経：聴覚 前庭神経：平衡覚	—	—
9	舌咽神経	延髄	舌後1/3の味覚と体性感覚、 上部咽頭の体性感覚 頸動脈洞、頸動脈小体	上部咽頭の筋	耳下腺
10	迷走神経	延髄	下部咽頭の体性感覚、 喉頭の感覚、内臓感覚	下部咽頭の筋、喉頭、声帯の筋	内臓
11	副神経	延髄	—	胸鎖乳突筋、僧帽筋	—
12	舌下神経	延髄	—	舌筋	—